

下野市立緑小学校

1 学校課題

共に学び合い、高め合い、認め合う児童の育成
～児童が興味を持って取り組み、思考の深まりが期待できるような教材の工夫・開発～

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

本校では、前年度、学習課題を自分のこととして継続的に意識しながら学習を進めていけるような導入の工夫や、自分の考えを吟味するための多様な考えの共有、その結果として児童が学びの深まりを実感できるような授業展開の工夫を研究し、児童の必要感に迫る教材や授業展開、そのためにICTを活用する有効性などについて、教師が実感することができた。一方で、導入に限らず児童が継続的に必要感を維持したり、授業展開に沿って新しい疑問や追究課題を見い出したりしながら取り組むことで思考が一層深まるような教材・授業展開の工夫については、新たに課題が見えてきた。

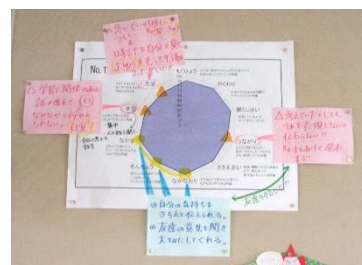
新しい学習指導要領が完全実施となる今年度は、研究主題の「共に学び合い、高め合い、認め合う児童」の姿を、「主体的・対話的で深い学びのある学習」という授業像やそのときの児童一人一人の姿と重ね合わせて再確認しながら、それを実現するために教師に必要な授業力、児童の学力、それらを繋ぐ環境や教材などについて、これまでの成果を整理し生かしつつ追究していきたい。

3 研究内容

(1) 「学級力」の向上と、互いの考えを出し合い学び合える学習集団づくり

○学級力向上と、学び合える学級集団づくりの手立て

本年度も、全学級で「学級力アンケート」とその結果を可視化したグラフを基に自学級のめあてを話し合う活動を定期的に行うことを、手立ての一つとして取り組んだ。各担任はQ-U調査の結果も併せて活用することで、一人一人の児童にとって学級が居がいのある場所ともなるよう取り組んだ。



(2) 児童の必要感から出た課題を継続的に生かし、授業展開に沿って新しい疑問や追及課題をさらに見出せるような教材の工夫・開発

○昨年度の学校課題研究において、導入時の学習課題づくりの大切さが確認され、さらに授業が進む中で新しい疑問や課題が見い出され、児童一人一人が「もっと知りたい」と実感しながら取り組むことが、思考の深まりにつながるのではないかという仮説をもった。そこで本年度は、児童一人一人が必要感をもてるような教材の工夫・開発と、学習が進むにつれ新しい疑問や追究課題を見出し取り組めるような授業展開を工夫していくこととした。

(3) 児童の課題意識・追究意欲が授業の過程で徐々に展開することで、思考の深まりが期待できるような授業づくり

○課題意識を高め、継続・発展する工夫と、思考の深まりが期待できるような授業づくりの手立て

昨年度末行った学校課題研究の話合いでは、導入時に児童の「知りたい」といった感情を刺激する教材の工夫・開発が大切であることを確認し、また、授業が進む中で新しい疑問や課題が見い出され、児童一人一人が「もっと知りたい」と実感しながら取り組むことが、思考の深まりにつながるのではないかという仮説をもった。そこで本年度は、児童一人一人が必要感をもてるような教材の工夫・開発と、学習が進むにつれ新しい疑問や追究課題を見出し取り組めるような授業展開を工夫していくこととした。



(4) S&Uコラボ事業に関わる授業研究

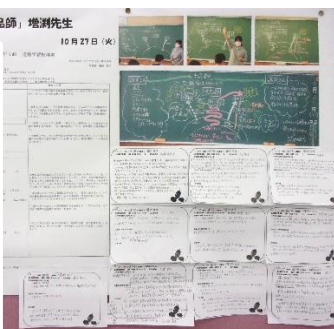
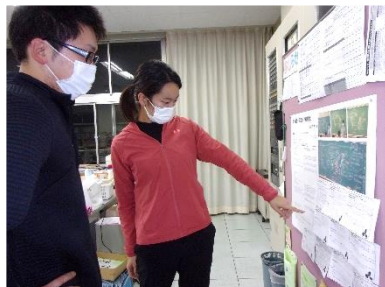
月日	学年	単元名	課題追究のための手立て 等
12 ／ 16	2	算数 「かけ算 (2)」	<p>(1) 学び合える学習集団づくりについて 考えを図や式に表すことによって、説明が比較的容易になるような活動を工夫し、児童が説明する機会を設ける。また、発表者の説明が不十分な場合には、発表者が何を言おうとしているのかよく聴き考えて、みんなで補い合い、一つの考えを作り上げるように工夫する。</p> <p>(2) 新しい疑問や追及課題をさらに見出せるような教材の工夫・開発 基本問題でいろいろな考え方を確認後、児童が興味を持つような適用問題を提示することで、基本問題を活用して解こうとし、挑戦したいという意欲を持てるよう工夫する。</p> <p>○授業研究会 録画した授業を見直しながら、参観者の意見・感想を検証したり意見交換を行ったりする。講師からのご指導をいただく。</p>



(5) 全教員による、一人一授業研究

教科を限定せず、様々な方法で課題に迫る授業を実施した。

○方法…研修の一環として授業計画シートを作成し、可能な教員が授業参観する。参観後は「振り返りカード」を提出し、掲示して、全体で共有する。



4 本年度の成果と課題

- なかよし班活動や休み時間の遊びが制限され、児童のふれあいや体験活動が制限された今年度は道徳や学級活動の時間を充実させることで、学級力の向上をめざした。学級力アンケートとその結果を共有する話し合い活動も今年度は2回の実施にとどまったが、児童自身が自分たちの学級のよさや課題を意識しながら生活する土壌はこれまでに培われており、アンケートを基にした話し合いでは、課題を自分たちの努力・協力で改善しようとする意識・行動が見られた。「学びに向かう学級集団」の実現に向け、今後も意欲的に取り組みたい。
- S&Uコラボ事業・人権教育・情報教育といった大きな授業研究のほかに、教科を限定せず課題追究する授業研究を行った。授業者は、自分の得意とする教科や実験的な方法に取り組むことで研究意欲が高まった。参観者、特に若手教員にとっては、参観機会の少ない教科や指導方法を参観でき、有意義だった。今後も、これまで通りの授業展開が難しい状況が続く可能性を踏まえ、どの教科においても新しい授業展開、教材の工夫・開発が必要と思われる。今年度の取組をさらに充実させていきたい。